

4日 金曜

ルカ



9:51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、

9:52 ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリヤ人の町にはいり、イエスのために準備した。

9:53 しかし、イエスは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリヤ人はイエスを受け入れなかった。

9:54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

9:55 しかし、イエスは振り向いて、彼らを戒められた。

9:56 そして一行は別の村に行った。

9:57 さて、彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「私はあなたのおいになる所なら、どこにでもついて行きます。」

9:58 すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所ありません。」

9:59 イエスは別のの人に、こう言われた。「わたしについて来なさい。」しかしその人は言った。「まず行って、私の父を葬ることを許してください。」

9:60 すると彼に言われた。「死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

9:61 別の人はこう言った。「主よ。あなたに従います。ただその前に、家の者にいとまごいに帰らせてください。」

9:62 するとイエスは彼に言われた。「だれで

も、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくありません。」

ヤコブとヨハネは主のことを思い、また信仰に働く主の力を信じていました。しかし、その動機は人間的な感情でした。信仰に篤い人も、そういうところがないか、自省してみることも必要でしょう。

「人々の手に渡される」苦難のイエス様こそ、私たちの力であり誇りです。このイエス様とともに苦難をも恐れず、勝利の確信で未来に進みましよう。

イエス様は、これから十字架にかかる場所であるエルサレムに顔を向けて、強い決意で進んでおられました。主に従いますといいながら、すぐに行動しようとしぬ人々に対して、イエス様は、それらの言い訳を見抜いておられます。私たちのことばも言い訳になっていないか、吟味してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

